

# これまでに頂いた主な意見

平成30年10月25日  
四国地方整備局

# 情報提供や住民への周知に関する主な意見

■これまでに寄せられた意見や関係機関の課題をもとに、情報提供等に関する課題を分類。

- 《主な課題》 ①確実な情報伝達手法      ②情報発信の適切なタイミング  
                 ③情報提供の内容(平常時)      ④情報提供の内容(出水時)

## ①確実な情報伝達手法

(検証等の場における主な意見)

- ・情報を「伝える」と「伝わる」ことは違う。
- ・ダム直下の避難指示は、河川水位だけでなく、ダムの放流量を取り入れるなど、指示のあり方について検討する必要がある。
- ・ダム操作や情報を受ける側の意見を得て、仕組みを考えていく必要がある。
- ・情報の受け手側の行動が変わる事が有効。情報のあり方を考える場を住民参加にする。地域で共有化を図って欲しい。
- ・多様な手段で情報提供を。

(住民等の主な意見)

- ・サイレン、スピーカー等が聞こえなかった。

## ②情報発信の適切なタイミング

(検証等の場における主な意見)

- ・モードの切り替えが重要。判断をよりスムーズにできる仕組みを。

(住民等の主な意見)

- ・避難指示の発令が遅かったのではないかな。
- ・ダム放流等の情報をより早く住民に知らせられなかったのか。
- ・避難勧告がなく、いきなり避難指示であった。
- ・市は避難情報に関するプロ集団を作るべき。

## ③情報提供の内容(平常時)

(検証等の場における主な意見)

- ・ダムの放流量と下流の被害のイメージが関係機関と共有できていたかどうか検証する必要がある。
- ・ダムの操作規則について、地域住民に理解されていたのかを検証するとともに、地域住民に理解されるシステム構築も重要。
- ・今後は水位周知河川の指定をして浸水想定図を作成していくことが必要。
- ・国・県・市の情報共有が重要。
- ・情報をうまく活用するように地域の避難訓練や勉強会でつなげて欲しい。
- ・浸水過程をCG化し、住民に映像で見せることが消防団の訓練等に役立つ。

(住民等の主な意見)

- ・具体的に防災計画をどう取り組んでいくのか。
- ・防災計画をしっかりとってほしい。
- ・ダムがあるから大水害は起こらないと思っていた。
- ・放流による被害規模のイメージが十分に共有されていなかった。

## ④情報提供の内容(出水時)

(検証等の場における主な意見)

- ・緊迫感や重大性を伝える周知が必要。
- ・情報をアドバイスして頂けるリエゾンが必要。

(住民等の主な意見)

- ・異常洪水時防災操作時は、通常時と比べて切迫感のある周知が必要。
- ・熊本地震でも携帯への警報が有効であった。
- ・ダム放流量の情報を住民に知らせて欲しい。
- ・急激に放流量が増えるとわかれば、もっと危険性を認識できた。
- ・下流に被害が出るかシミュレーションしていながら、なぜ周知しなかったのか。

黒字:「第2回検証等の場」より前の意見

赤字:「第2回検証等の場」以降の意見(大洲市住民説明会等)

※各発言内容を記載しているため、主語は一致していない。

# ダム操作に関する主な意見

## ■これまでに寄せられた主な意見

- ①事前放流による治水容量のさらなる確保
- ②異常洪水時防災操作の前の早い段階からの放流量増加
- ③気象予測に基づく操作
- ④その他

### ①事前放流による治水容量のさらなる確保

(住民等の主な意見)  
・事前にダムの放流量を増やし、ダムの貯水位をもっと下げられなかったのか。

### ②異常洪水時防災操作の前の早い段階からの放流量増加

(住民等の主な意見)  
・異常洪水時防災操作の前にダムの放流量を増加しておけば、これほどの放流量になることはなかったのではないか。

### ③気象予測に基づく操作

(検証等の場における主な意見)  
・柔軟なダム操作は、確実な降雨の時空間予測が前提条件であり、難しいとは思いますが、課題など検討していくべき。  
(住民等の主な意見)  
・気象予測の精度も上がっており、大規模洪水や中小洪水など洪水に応じた柔軟な操作ができないのか。  
・今までにない雨量が想定されていたならば、従来の規則通りの対応ではなく、もっと計画的に放流できなかったのか。

### ④その他

(検証等の場における主な意見)  
・異常な降雨であった今回の洪水に対し、ダム操作についてまだ工夫ができる点を検討する必要がある。  
・気候変動の関係から、近年の降雨が激甚化していることから、ソフト対策だけでなくハード対策についても検討する必要がある。  
・気候が変わっている状況のもとで、今のハード対策(堤防・ダム)の計画でいいのかということも、今後検討していく必要があるのではないか。  
・ダムの治水容量を安定的に確保していくことが必要である。  
・今年度完成する鹿野川ダム改造による容量確保を上手く利用し、流域全体で有効な操作規則を検討する必要がある。  
・野村ダムについても有効に活用するためには、改造等の検討も必要である。  
・今後の検討として、ダム流域の状況などの過去データを取りいれた、ダムのAIプログラムの開発を、国や大学と連携して進めていただきたい。  
(住民等の主な意見)  
・野村ダムと鹿野川ダムとの操作の連携はとれているのか。

黒字:「第2回検証等の場」より前の意見      赤字:「第2回検証等の場」以降の意見(大洲市住民説明会等)

※各発言内容を記載しているため、主語は一致していない。